

～ 文化財等の英語表記のあり方に係る京都の状況について ～

1 京都の訪日外国人旅行者の状況

- ・ 観光庁や JNTO と連携した取り組み等の展開により、世界的旅行雑誌の観光人気都市として2年連続1位を獲得
- ・ 訪日外国人旅行客の増大（1,341万人）の中、京都での宿泊客数183万人となり過去最高（前年比約62%増、）
- ・ 京都での宿泊割合は、訪日全体に比べて北米・欧州・豪州が高い（約36%）、
（①台湾、②中国、③アメリカ、④フランス、⑤オーストラリア）

2 京都が目指す観光の姿「世界があこがれる観光都市」

京都は、先人が継承してきた景観や文化芸術、伝統産業、文化財など日本文化発信の中心地として、外国人をはじめとする観光客から奥深い京都の本質を体感できる観光が望まれている。

「京都観光振興計画2020」を策定；191事業を展開中
観光消費額；1兆円，訪日外国人宿泊数；300万人を目指す



○課題

京都の最大のコンテンツ（強み）である文化について、
外国人観光客にその本質を発信したいがその対応が不十分

3 訪日外国人旅行客の満足度の向上

(1) 市内の文化財の英語表記について

- ・ 京都には数多くの重要な文化財が存在（約3,000件）し、所有者がそれぞれで管理
- ・ 二条城をはじめ市域の文化財等の英語表記のさらなる充実を通して、歴史的背景や文化財の価値等を伝えることが重要
- ・ 文化庁のモデル事業への応募等を通じた改善に向けての取組等の検討が必要

(2) 京都市認定通訳ガイド（特区通訳案内士）制度の創設（50名程度）

ア 現状・課題

- ・ 市内に多数の重要な文化財が存在し、ニーズや需要は今後も拡大

イ 総合特区制度を活用した京都市認定通訳ガイドの育成

- ・ 2カ国語（英語，中国語）を対象に募集し、「基礎研修」，特定野別の「専門研修」の受講後，分野別の口述試験により認定
 - ※ 一般研修：コミュニケーション，ホスピタリティ，ガイドスキル，一般的京都の知識，旅行過程，実地研修等
 - ※ 専門研修；伝統産業，伝統的文化芸術，文化財，食文化，産業観光，コンテンツ，自然等からの選択性
- ・ 通訳案内士への普及拡大（質の高いガイドの確保）

(3) 今後の展開と課題

ア 展開

- ・ 文化財の多言語化表記による案内の充実や，京都市認定通訳ガイドの育成を通じて，市域文化財の魅力等の発信力向上 ⇒ 外国人の満足度向上
- ・ 外国人旅行客向けビジネスの展開と雇用の創出

イ 課題

京都には数多くの文化財が点在することから，

- 多くの所有者や管理者への，多言語表記の重要性の理解促進
- 様々な分野の専門的知識をもった多言語訳可能な人材の育成
- 多額の予算確保
- 長期的取組の想定

○ 参 考（京都市内文化財件数）

- ・ 京都市内の文化財件数は，約3,000件あり，国指定の文化財（有形文化財，無形文化財，民俗文化財，記念物等）のうち，国宝210件，重要文化財1,652件，登録342件
- ・ 京都市の指定・登録の文化財が約500件
- ・ 同じく，京都府の指定・登録の文化財；約180件